

50代・60代のための ライフワーク 起業の ススメ

本当に「やりたいこと」を見つけて
ビジネスにしていく手法とは

大場保男 著

セルバ出版

はじめに

● 50代・60代が起業する人全体の50%を超えている！

なぜ、シニア層の起業が多いのか？ 老後の生活のためという経済的な理由の他に、「このままで終わっていいのだろうか？ 自分の人生は：」と、今までの人生を振り返って、これからの人生をどう生きるかを考える年代だからだと言われています。

● 人生を2度生きられる時代

男女とも平均寿命は80歳を超え、「人生100年時代」とも言われています。戦後すぐの昭和22年の平均寿命は、男性が50・1歳、女性が54・0歳でした。私たちが子供の頃は「人生50年」と言われており、80歳を過ぎた人などは稀でした。思えばこの70年あまりで30歳も伸びたことになりません。

新卒で会社に入り、定年まで勤めあげて、老後は悠々自適に暮らす、そんな時代は過去のものになっていきます。今や「人生50年」の頃と比べると「人生を2度生きられる時代」に私たちは生きており、長い人生の後半をどのように生きていくのか、老後の生活費のことも含めて、多くのシニアの課題であり関心事となっています。

こんな状況の中、50代・60代で起業する人が非常に多くなっています。起業する人たちの中で、

この年代の占める割合は51・8%、とくに60代は35・0%と各年代を通して一番高く（2017年版中小企業白書より）、50代から準備して60代になって起業する人が多いことがうかがえます。

このようなことから、今や起業といえばシニアの時代と言われています。

●50代以上は自分のやりたいことで起業する人が多い

私は、神奈川県内の商工会議所や行政機関で起業相談を13年間担当していました。相談者の数は600名を超えています。以前は30代・40代の人の相談が多かったのですが、7〜8年くらい前から50代以上の相談者が大変多くなりました。それも男性だけでなく女性もこの年代の人が多いのです。

相談を担当していて気がついたことがあります。30代・40代の人は、今までと同じ仕事で独立起業するという傾向が強く、50代以上の人は、今までとは違った仕事を選ぶ傾向があるということです。

50代以上になると、今までは家族や子供のために生きてきたけれども、これからは「もっと自分を活かす仕事をやりたい」という意識の人が多くのように感じられます。

アパレルの会社の部長だった人、ある日帰宅して奥さんに「オレ、会社を辞めて庭師になる」、そう言われた奥さんは目が点になったそうです。その後、庭師として独立してストレスも少なくのびのびと働いています。刑事を辞めて地域の特産品を開発して事業化している人、IT業界から豆

腐屋に転身し事業が次々に広がっている人、同じくIT業界から「福祉ができる美容師」として自らの活動だけでなく仲間を全国に広げる活動を行っている人、コンビニのパートから若い頃からの夢だった料理の仕事で起業した女性、子供たちが独立したので古民家を活用したカフェを開いている女性など、様々なテーマで起業しています。

年金や退職金だけでは老後の生活が不安だ、という経済的な理由から起業する人も多いのも事実です。しかし、今あげた彼らに共通しているのは、今までの仕事とは違う世界に飛び込んで、「自分のやりたいこと」で起業しているという点です。

このような人たちを見ると、50代・60代という年齢は、それまでとは違った視点で自分の人生を考えていると思えるのです。

● 自分の生きてきた人生を振り返ってみる年代になった

どこからともなく行列が続いている
次から次へと人が歩いてくる

この行列は、どこから来たのだろう

そして、どこへ行くのだろう

誰も知らないで、ただ歩いている

この行列には、あなたも加わっている、そして私も…

この文章、私が高校生のある本を読んでいて目に留まり、今でも鮮明に覚えています。高校生といえば、生意気ながらも「人生とは何ぞや？」などと考え始める時期ですね。その後は、受験だ、就職だ、仕事だ、結婚だ、家庭だと、「人生とは何ぞや？」などということは考える暇もなく、ただただ時間が過ぎていき、気がついてみるといつの間にか中年と言われる年代に差し加かっていました。

しかし、50歳を過ぎたあたりから、今まで考えもしなかった「自分の死」について、時々ふっと気に掛かることがあります。「自分はあと何年生きられるのだろうか?」、「自分の人生は、このまま終わっていいのだろうか?」という思いが心に浮かんで来るのです。

50代のサラリーマンの人たちと飲みながら世間話などをしてしていると、次のような悩みが出る人が多いという話をしばしば耳にします。

- ・今の仕事は好きではないが、生活のために続けざるを得ない。
- ・無意味に年だけとっていくようで、自分は何のために生きているのだろうか。
- ・何をやっても喜びは感じないし、充実感もない。
- ・もう、俺のサラリーマン人生も先が見えているよ。

酒の上の話なので本音が出るようですが、一人がこんな悩みを話すと、他の人も「実は俺も…」と、

同じような悩みで話は盛り上がるというのです。そんな話で盛り上がりつつも…と苦笑しつつ聞いています。

●心理学の発達段階から見た50代・60代とは

ジョージ・ワシントン大学の心理学者ジーン・コーエンは、長年の研究の結果、人生の後半生は次の4つの発達段階に分かれると結論づけました。

- ・第1段階 再評価段階（40代前半～50代後半）
- ・第2段階 解放段階（50代後半～70代前半）
- ・第3段階 まとめ段階（60代後半～80代）
- ・第4段階 アンコール段階（70代後半～人生の最期）

40代前半～50代の後半の「再評価段階」は、「人生の意味を見つけない」「新しい仕事を始めたい」「夢に挑戦してみたい」という気持ちが湧き上がってくる時期であり、次の50代後半～70代前半の「解放段階」は、自分のこれまでの人生を再評価し、新たな技術を習得したり、新たな活動や役割に挑戦するエネルギーが湧いてくる段階だということです。

●古代インドの人生の4つの時期とは

古代インドでは、人生を次の4つの時期に分けていました。

- ・ 0 ～ 25歳 学生期 よく学び、身体を鍛える時期
- ・ 25 ～ 50歳 家住期 仕事に励み、家庭を維持する時期
- ・ 50 ～ 75歳 林住期 真の生きがいを探す時期
- ・ 75 ～ 天寿 遊行期 自分の人生を統括する時期

林住期は、ひととおりの苦業を経験して人生がわかってきている年代であり、昔の人は「人生の黄金時代」と呼んで、楽しみにしていたそうです。

このような心理学の研究や古代インドの見方から起業を考えると、自分の「本当にやりたいこと」を仕事にすること、持っている可能性や使命を踏まえた仕事を通して、「これこそ自分の生き方だった！」と後悔のない人生を全うすること、これが50代・60代の起業の原点だと言えるでしょう。

● ワクワクする第2の人生を送るために

起業によって、自分の本来持っている能力を活かして社会の役に立つ、毎日ワクワクしながら仕事をすると、これが叶うなら、きつと充実した第2の人生になることでしょ。

しかし、次のような疑問が湧いてきませんか。

- ・ 自分の本当に「やりたいこと」や「自分の可能性」って何だろうか？
- ・ 今考えていること、これが自分の本当に「やりたいこと」だろうか？
- ・ 本当に「やりたいこと」を仕事にするにはどうしたらいいのだろうか？

・本当に「やりたいこと」を仕事にしてお金を稼ぐことができるのだろうか？

・それ以前の問題として、起業して本当にうまくいくのだろうか？

こんな疑問にお答えするのが、本書で紹介する「Cobaメソッド」、私の今までの起業相談から生まれた実践的なメソッドです。

これによって、本当に「やりたいこと」や「自分の可能性」を見つけ、天職と言えるライフワークで起業して、第2の人生を充実したものにしていただければ、とても嬉しいです。

2021年1月

大場 保男